

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-13

無尽ニ関スル争点

(発行年 / Year)

1910

明倫彙編

格波起子委子補切本周

無盡閣

大憲院

判次向司葛集文

手校

八月廿日 勸告ノ福身堂金取簿本事件

経費ノ檢査者等亦亦者人推し金主担仕るべし備則
 三抵り或監屋ノ約又社書ノ各取ノ金主事貯金簿
 本ノ海權ヲ有するべき事案トシテ備創ノ十二条ノ解約釋ノ
 語カヲ上ナリ
 且總理トキニ親ノ子前取次ヲ頼ムニ至テ十九日午後
 向新ノ非難ヲ試シモリラ至人理ハトモテテ爾マ
 二學大判ノ編創カニ至テ金主貯金庫取ノ手摺ヲ執定之辭文リ
 外証ノ其留書ノ如キ抄取信ノ等ヲ云々トシテ掛金簿カ
 新権ヲ云々トシテ不詳ナリ。諸君ノ解約ノ事より上テ理
 由トシテ相々

一 理由不備ト大判ニシテ民事訴訟法第四百四十三條中「若シ定
 當ニテ不付アル旨ニテ一次一点トシテ上ニテ一人ヲ本件左ノ推長
 ヲ有シ者トシテ」掛取等モ三言又判ノ支取枚等ノ判ノ理由書内ニ
 三言大判ニ於テ上トシテ「取扱ノ方持カ四方」者ニ「取積」トシ
 明カトシ「支取大判ノ事實」ヲ「借取」トシ「控」テ「控」テ「控」テ
 認リテ「上」リ「ト」テ「等」トシ「尊」位「上」テ「控」テ「控」テ「明
 了」テ「控」テ「又」「事」實「簿」ノ「記」述「事」實「大」判「可」ク「職」權「ナ」リ
 二 取積違法ノ大判「ト」シ「テ」「即」上「ト」シ「テ」「合」意「之」「法」律「事」實「ナ」リ
 カ「キ」者「監」査「者」等「に」「合」意「ナ」リ「取」積「簿」等「上」テ「合」意「人」等「に」「取」扱「ト」シ
 多「ク」「取」扱「ト」シ「在」テ「事」實「簿」内「に」「取」扱「人」等「取」扱「ナ」リ「且」「其」他
 種「々」ノ「取」扱「ヲ」「採」用「ス」ル「途」ヲ「選」リ「テ」「事」實「大」判「ニ」「上」ト「シ」テ「上」テ
 一 諸人等事案ト再訴人ト者有テ上ノ中「下」三「條」ニ「同」異

名目ノト事ヲ定部トシテノ謹摺リテ寄ル
 等々ニ臣等ノ力ヲ以テ明悉無遺書テ有御
 任ニテ無効トセシメテ以テ此ノテ廢止
 御旨ノ如ク

三上管合 御大判可ハ 官田ノ事ニ 御大判ヨリ
 御大判ノ位ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ
 ナリト云ト 御大判ノ 御大判ニ 御大判ニ
 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ
 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ

九

十月二十日

落札御生請事申

一落札御生請事申
 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ

御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ
 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ
 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ

御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ
 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ
 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ

十

十月三日

無尺掛屋生請事申
 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ

受不利ノ兵者一領ノ字秘ニシテ取リ上テハ古事ノ古事
ヲ温習セ不流ノ大判リト言ト原初ノ古事古事ノ古事
世澤也

二原不利ノ甲一原ノ古事ノ古事全社事ニシテ宛名ニ原初ノ古事

世澤人原初ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事世澤ノ古事ノ古事

十一

十一月 共同願益福屋取戻事件

一 共同願益福屋取戻事件

共同願益福屋取戻事件

共同願益福屋取戻事件

共同願益福屋取戻事件

共同願益福屋取戻事件

共同願益福屋取戻事件

共同願益福屋取戻事件

共同願益福屋取戻事件

共同願益福屋取戻事件

トモリトシテ知事迄ハ相立リ

二 草院ノ行為ニ不慮トシテ草院ニ草院ノ旨藏前掛
金ノ旨藏金ノ掛屋トシテ草院ノ地召キト申一証書知ノ
主者ハ掛屋トシテ草院ノ旨藏前掛屋金ヲ草院
ノ旨藏前掛屋トシテ草院ノ旨藏前掛屋金ニ
テカシヨリ

三 主者ハ九右内外出テ草院金トシテ主者ニ極上
トシテ主者認ミニシラ九右内ノ内ナリトシテ主者ハ不法
ナリトシテ主者認ミニシラ九右内ノ内ナリトシテ主者ハ不法
不法トシテ

四 治法各條ノ事トシテ

十二 十月二十日

講全清本事件

- 一 一羽ハ者ノ初カニキ他此主シリ
- 二 若者ノ謹擧トシテ採用ナリトシテ草院前掛

草院前掛内リニテトシテ主者

明治三十七年

十三

二月廿七日 批准西度方書事件

州上より上度と云ふ人々自レノ意見ヲ以テ隔房ヲ掛至リ種

ノ儀奉リト請出シテ而シテ出訴物限由ルヲ適用セシ

ハ意旨アリト言ハレモ其以外ノ概制ヲ構成シ意旨アリト

請フモノナリ

次ニ原告初次ニ能ク現物書ニ掲及セルハ排權ノ法則ニ

盡背シタルニ之ヲ以テ原告双方立言州判物トシ其

層ノ性質如何ヲ初定シカガハ原告ノ権利トシ其四條ハ

判權ノ性質ナリ

次ニ原告初ハ原告ノ取替ハ共同ノ取替ニ因テ之ト爲シ

各ノ遺失ノ部ナリ知ルモノナリ故ニ原告等ノ代筆者

有テスルト判定シタルニ原告等ノ有無ヲ問ハズ其

十四 四月七日

投票監督事件

一原告 投票券ノ信憑薄ク投票手續社々トシ投票トモテ

ナリト事實ヲ述ビ之ニ依テ原告等ハ社々トシ投票

限カ投票ナキナリ然レモ投票券ノ神祕ハ原告等ニシテ

以テ注意ハ未ダ得テ神祕ノ有無ニシテ言ハレ投票券

取替上ルこと判断ナリ

二三原告等原告等ノ権利有無ニ依テ之ヲ判断ス

是非難クハ

十五 五月十日 頼田子福相屋取戻事件

一 宗藏難位 講會上 菩提ノ務ニ由テ 社主目的ニ行
シ 聖ノ云々ニ 社神講設ニ 目的ニシテ 利益ヲ俟テ
スニ 社ノト 書空ヲ 忍テ 限ルニ 言ハ 不 満 辱ト 仰
リト云々ソ仰ス

二 主要ノ事ニ 本満會日ノ 利益 不平等ニ 言ハ 不 満 辱
又 辱 降ニ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

三 辱 降ニ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ
社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

四 主要ノ事ニ 本満會日ノ 利益 不平等ニ 言ハ 不 満 辱
又 辱 降ニ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

五 本講ノ 改ニ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

六 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

七 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

八 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

九 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

十 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

十一 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

十二 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ 社主ノ

ま面ニ共知漏連ヲ清取簿ト述ニ共知漏世説方如ト

彫刻ニク印判ヲ押捺ニテハト云々世説方々ハ古ク人共ヨリ

社上古人之竹ト置キタルト明略アリト認明シ以テ事

止差人社上人間ニ證まク控受ト云々ト云々ト判定セ

ト云々ト

二争院カ甲乙証用ト云々社上人間ハ權物因縁ノ

ト認定セ州ト相者ト認明トナリ

三争ニ於テ前手認保リニ争ニ於テ據用并保見ル

形跡認明ト云々ト

四連控ト稱ス者ハ所々在マ世説方ハ上告ノテ代ま者

ニト其認明ハ至極ト云々自ラ言認取リト

同様ト云々連ト稱ナリ在連前ト上告人ト

間ニ如何ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト

對ニ本件ヲ請申スルニ云々トナラヌ

二月廿四日 極西ト滿州至西展請本事件

一社者ト主者ト因ニ各由ト云々ト認ニ云々ト云々ト理由ト云々

二衆人ノ儀者ト作據ト後見ト儀者ノ体據ト認ニ

理由ト認定スル得トナリ初人ト至事ナリ

三月廿四日 預金請本事件

一原告ハ如何ト請定ト云々ト云々ト云々ト云々ト

二原告ハ如何ト請定ト云々ト云々ト云々ト云々ト

三原告ハ如何ト請定ト云々ト云々ト云々ト云々ト

四原告ハ如何ト請定ト云々ト云々ト云々ト云々ト

五原告ハ如何ト請定ト云々ト云々ト云々ト云々ト

六原告ハ如何ト請定ト云々ト云々ト云々ト云々ト

七原告ハ如何ト請定ト云々ト云々ト云々ト云々ト

八原告ハ如何ト請定ト云々ト云々ト云々ト云々ト

三十一月十日 当藏高屋事件

一 事件の各条類に件房中々等の上正六若蔵産取
座の福永ヲ為ユ件ナヤ勿論ナリ又三ノ主度ハク
座漏ニ高シトト侵シ之ニ立入人等ノ體斷リ以テ康
福永令盛ニヤ才始ク之ヲ若蔵屋正座高屋本之
權ナシ

二 寺村丈ニ批批人等ノ申立証依リ若蔵屋ノ正座
ヲ植テ主度之ニ注証勅状ニ度入批批ノ国キマ
ハテテト立立又位漏別ニ申渡シテ無漏ニ場合ノ
公方水坂ノ批批ナキトシ批批人等ノ權ニ正座
ナリテ之ヲ若蔵屋ノ正座ニテ得立之ニ才始ナリ

三十一月九日 三曾院坐出御断 批批之申立証 權違ハシトシ

一 寺村丈ニ批批人等ノ申立証依リ若蔵屋ノ正座
ヲ植テ主度之ニ注証勅状ニ度入批批ノ国キマ
ハテテト立立又位漏別ニ申渡シテ無漏ニ場合ノ
公方水坂ノ批批ナキトシ批批人等ノ權ニ正座
ナリテ之ヲ若蔵屋ノ正座ニテ得立之ニ才始ナリ

三 曾院ノ新ニ証ハ寺村福永前即立證ニ立立
メト判出シタルハ違法ニテアリ

四 三十一月十日 高屋ナリ

空寂抄附記

一 壬午五月廿日 盛恩編撰久現在當座取用是收訂算任分

請香ノ詞訟

吾式ノ不情リ且理由在ル也

一 無形ノ名空魚滿ニ滿ルニキト大判ニシテ法理ニ支弁

二 空魚滿ニ滿ルニキト七士ノ名空魚滿ニ支弁アリ但ニ

ハナナリ

三 空魚滿ノ所滿滿魚ト富所前リトノ滿見ト法所富所

者ノ以任ニ支弁ヲシトシ不願ニ所ヤシト

四 空魚滿ノ道本ニ無形ノ名其滿ニ富所ニ同所ニ滿

魚ノ共有是ノ御上ト滿空ニニ偏照ノ照見トシト

士法橋ノ

大曾能富所者其富所取者所今今所設國ヲ申之

權利ヲシトマシ之ニ法理ニ適ヤシト

此如前ニ支弁ニ并教ニ滿ニ所滿見梅上見ナリ滿對ニ

法理上何事梅ノ有メシト云フ

此如前ニ空魚滿ニ支弁且性空ニ年當性空ニ滿見性空ニ

調者ニシニ支弁ナリヲ認メ

在五月十九日 無尺滿至滿半ノ詞訟

此如前ニ帳原ニ基キ訂算ヲ過シト三百十餘兩不足ト云フ

ヲ以テ其滿見ヲ為シト支弁ナリニ排弁ナリ新如前ニ故

調者ニ取別是是ト空魚滿ニ教ニシテ法理ノ條々條々

空ニシテ御上支度ニト云位滿ノ担減ハ火ニ賭博的ニ云ナリ

空ニシテ御上支度ニト云位滿ノ担減ハ火ニ賭博的ニ云ナリ

空ニシテ御上支度ニト云位滿ノ担減ハ火ニ賭博的ニ云ナリ

ト云ハリ

但知海六之ヲ踏博的ト云ハリ法律但履ク云ハルミナラズ

扣控院ニ本務執則ヨリヨク種々條件ニ目的トシテ富藏取扱
云ハリ法律但履ク云ハルミナラズ又ノ如ク始害大判ヲ取而

ニ本件並現當期ニカニ意テ云ト云フ
三 三ノ算二月廿日 請呈取執權 解厚 扣訴事件

扣訴六 請呈ヨリ 協知履然局委テ 毎件ヨリ意テ云ト云
展之上ニ且謹極テシテ左ニ、富藏、其裁著ヲ取扱員ニ生

覽即ノ注履然局ニ、富藏、日中裁當ノ屬令之ノ權ヲ
ユト明カスリテ、借權者ニ社扣控人ヨリ本件ヨリ意テ云ト云
リ、其注履然局ニ、意ニ、キ裁著ヲ取扱員ニ

四 三年八月十日 無尽利全取産事件

本報無尽ヲ組織シテ、裁判者共ソ見ニ、利全協會ノ取扱員

五、其ノ組織ナリ、然レ、取扱員本報ノ取扱員ニ、利全協會ノ出

シ、取扱員ヨリ、利全協會ノ出、利全協會ノ出、利全協會ノ出

七、其ノ組織ナリ、然レ、取扱員本報ノ取扱員ニ、利全協會ノ出

格十五年前福高野區區所ノ認可アリシト、不トシ、關シテ

如斯協會、法律上保護ヲ受テ、ハリ、併シ、不トシ、關シテ

右、理直シ、然害大判ヲ取扱員、社扣控人、扣訴ノ前ニ

無、利全取産取産リ、法律上保護ヲ受テ、ハリ、併シ、不トシ、關シテ

五 三年十月廿日 頼四ノ請呈取産事件

神加治人共三編ノ層主トシテ症痛ノ管理ニ種ニ重ク臣
ヲ使ハレ拜海寺ヲ為ニ妻位之事明クナリ左ニ神加治人新
シテ註編 柳取ヲ拜シ海ニシテイマニイテイハレ海庵尼席ノ邊ニ
シ口実トシテ神加治ヲ推シカカス

又ニ神加治人階々年魚ヲ保タシトシテ之ニ親則ニ位
上信明彦書ヲ列寫ニ差ナリト申シテ於テ神加治
人本謂ク預官ヲ具敷臣ト令祝ニヤクシテ之ヲ神加治人
信賴彦書ヲ列海ニ謝シト推并ニ之ニ神加治人ト爲思ニヤ
年越ニ相吉ニ佳檀ヲ列海ニ於テハ所祝 後澤ニシテ節
トシ
仍テ始書大初ヲ取消ニ神加治人ヨリ神加治人ニ渡申金
銀度ノ之相吉ニ佳檀 彦書ヲ列海スル

函達 神加治院

十七年七月十七日 月賦重佐位 案件

即於十有日同格使函達ニ書カ回シテ遊言トシテ心致
耀無ク取洋ニ盡ク勤ク古裁金限ヲ以テ金ニ下サ
請注ヲ控痛ニシテ特重痛ノ所ヲ請進リ以
テ強弱ニ別ニ長ニシテ層々停休ニ之速派ヲ金
種リ所備ニシテカカシテハ所方ニシテ

七月五日 月賦重佐位 同前

左片控申ノ漏ルル災富四ノ同ノ心トシテ同格使達
ニシテ申シテ之ニシテ本所控申福ニ及テ控申ノ漏ト
同仕登ノ心ニシテ神加治人爲ニ使行ノ月約ナリト

陣中一休之由敷之ハ母出内在之ナリト論并之ニ又
古ノ傳

本備ノ内務使道ノ違背ニハ備則ニ惣衣別衣名義
アトナリ且其傳ニノ名義アリ其故又ノ金部手抄ノ
其ハ三江也而ハ社名花刺帳ノ隱也知種ノ計
事ヨリ作ルヘト論并之ト又其古ノ傳

八七月五日 月賦金位位同法

任金堂所空用ノ金部ト社名任是也ノ金部上差
アリト其之其是也ノ多ク論ノ其義ノ所ニ下
備ニ回ノ社名ノ所取之月賦金ノ海陽金六百餘兩
事若ク傳是也

九七月五日 金位位同法

吾皇御極ノ際ヲ社名ノ理之理也ノ社名ノ事
手抄ノ空ニノ社名ノ月日ニ取立ノ上ノ事
ナリト其ノ有之ニハ段名ハ有之ヲ而之ノ事
皆ノ社名ハ社名ニ總理ノ本堂ニ取立ノ事
リト

十一年六月七日 興祐會程金名傳ノ事

本會ノ祖職是層別ニ列記之可ノ役員四名ノ事
同キ又女ニ何本所請來ノ如ク和治不所限リ其
義等ノ事担ヤルヘト又依リ此兩名ノ事ニ新
三金部ノ清本其古ノ傳ニト

劉達文ノてハ攝摩中ノ攝ハ 抄行ハ 注撰ノ義ヲ
尽スルヲ理申ナシ

十五

三

八十 四講中政略儀儀調精來

陣落多ク又ハ講社ニ對シ講者ノ監督ノ儀ハ 権即

々帳簿度目ノ権者其ノ中ハ 在者ニ致シ之
又ナリ

十六

三三 六三十四

坐所攝摩請來事件

講經而即抄行ノ二儀ヲ 兼人ノ 欲注テ之テノハ

ナリ又 亞海ノ註撰ノ代表者ニシテ 物ノノ 常法ノ 處禮ニ

望スルハ 抄行ノ 注之 可也ハ 抄法ノ 限リ 猶ホ 多儀ノ
奪フニシテノリナリ

又和抄ハ 同層ノ 處知テ 同層ノ 儀ニシテ 月抄座屋ノ
卷ニテ 義第ニシテ 言ハルナリ

十七

廿七

高抄座屋請來 抄行事件

抄行人ノ 攝摩ノ 抄行ヲ 止抄座屋人ノ 爲テ 寧過宜

止抄座屋ノ 勝本ニテ 留ハ 既生ノ 攝外リ 交更ニ
又之ニ 因リ 攝摩ニ 同ノ 攝摩ノ 怪ニ 下 節ナリ

十八

廿八

輕々ノ 攝摩 猶舊更 必 必 訪物 著件

觸外ノ 主事ニ 本派ハ 加ナリ 他ノ 難進ニシテ 抄之

者ニ 爲テ 抄寫ノ 儀ニシテ 之ハ 抄ニ 加テ 抄ノ 儀ニシテ
トニ 爲テ 抄寫ノ 儀ニシテ 抄寫ノ 儀ニシテ 抄寫ノ 儀ニシテ

皇原ノ名度三物ヲ以下ニ定テ滿中ニテリ
附註ヲ列サズ

一該滿中ノ初メヨリ協儀ノ事ニ奉ルルニ前ニ其内布
垂ルルニ計算儀ニ提供之計算書ノ原ノ相席ニ六
色ノ門ノ於テ尺ノ寸ヲ以テ教サレ

二原中ノ御書ノ角ニ依テテ字ヲ親戚ノ諸國ノ字不
得止教入ルルニ依リ備列ノ分滿中ノ如クノ何人
ヤリテ温マニト申サレト下非ナリ

三格札取書リ而テ兩ノ錢金ナリ其内取用取書金ニ
テテオカテ原ノ原相席ニ取用格據之者陸生ニテ
ニテ流用格據之ハ不修理ナリ

四滿中金銀ノ事ニテ前ニ在リテ原ノ原位ニテトモ
一様分ニ辨之ル地處中者ナリノ確証ヲ要スルノ際ニテト
申サレトナリ

五原中格ノ社若クハ格札金ヲ其ノ取掛金原座ニテ
備ルルニテ社若クハ格札金ニテトモトモナリ

六原中該滿中ノ仕御ヲ考メテ錢ノ座中一人ノ對ニ萬
金自出金ニハ格或ワマテ注座マカキ書サリ

七格札証書社若クハ原中ノ字ニ差出ヌルニ在リテ
失マシテハ原中証書連印ノ便ニ滿中ノ取立座中
ニテナリ

八原中前ノ社若クハ格札金ニ其原中座ヲ取ルル
ハ在座ノ儀上ニテ社若クハ原中ハ借用ナリ
九社若クハ加入ニテ滿中証書中記名簿ノ印印ニテ

満座中ニテハ一音ニ誦テ請主ノ加護セヨ

十九 尊告ハ五古樹金ヲカニ久シク入テ位ヲヒキニ對シテ座

ニ戴金ノ海ヲ清むルノ性理

二十 事極アリトテ座満ニテ後居れ者ヲ坐後ノ座金ヲ

為テテ未居れ者ハ到是ニ座金ニ對シテ不向テテ坐

テテハ

二十一 尊告ハ臥去規則ノ不當ニテテテ座ニ直坐セシメテ座

札ヲ取席ニ更ニ改ムハ座札セズルヲ

二十二 袖苦ノ存亡ニ對シテ講義ノ座極金且死シテ手取

セズ權利アリテ果テ悔テ存亡ニテ坐前ノ規則ノ條

リハ知念ヨリ座金ニシテテ座金ニシテテ

二十三 七加許ハ誦善ノ行身ヲ以テ正者ノ座金ノ加許ヲ作

二十四 亦汝龍舟ノ満座 而四向中而四向座満也ト云

錢金四ノ内ハ半座満ニテテテテテテテテテ

二十五 杖扱ニ位ニ甲一証ニ坐テテテテテテテテテ

四ヲテテテテ其坐書ニ位扱ニテ座金ヲ提テテ

二十六 七加許ハ其坐書中ニ位前ノ座金ヲ用テテ

周令ニ教員トテテ加許ノ諸事ノ全整リ座

ニ

二十七 ミツセテテテ座四加許ノ物ノテ座金ヲ以テテテテ

満座ノ加許ノ推テテ

二十八 加許ハ七加許ノテ座金ニテテ座満ノ座金ヲ借入

セトセ且座金ニ座金ニ何トテテテテテテテテ

備具ニテテテテテテテテテ

三之 和歌の格孔をリ壁紙の二ノ一回位空方ノ批書ヲ
為ニ申道理ヲ批評ス者ナリ

三六 和歌の調子ヨリ批書最立洗滌ニシテナリ
本海清和ノ存マシテシテ調子云々世歌ノ如キニ
新ニ清キナリ調子ノ神陽ノ存方ニ適用ニキリ

三九 雲崎 菅原批評

三九 二名ヨリ取テリ可モノト云云云云其存方ノ者ニテ
以テ其ノ四ニテ撰ヤリニ且他ニ其存方ノ者ニテ
下リ故ニ草書ニハ加敷コ和ハ判別ナキト云

四〇 世ノ六 註調 正録ノ存方ニテ其存方ニテ
其取調ヲ撰リ判ヤ

四一 出處ニシテ其ノ同ニ註調ノ存方ニテ其存方ニテ

六 今更ニ註調ノ存方ニテ其存方ニテ

四三 明治工ヨリ註調ニ其存方ニテ其存方ニテ
相判リ其存方ニテ其存方ニテ其存方ニテ
(過海清ニテ其存方ニテ)

四三 中山 本調ノ存方ニテ其存方ニテ
ニテ其存方ニテ其存方ニテ其存方ニテ

四四 産調

四四 其存方ニテ其存方ニテ其存方ニテ
お物ノ存方ニテ其存方ニテ其存方ニテ
夕ノ存方ニテ其存方ニテ其存方ニテ

四五 和歌の存方ニテ其存方ニテ其存方ニテ

幸、加泊るの勝手ノ計專ニカヘナリ

聖天本海寺点社抄抄、昔の閑居ヤリシレハ後々抄抄ノ

ハ左邊ノカケト一ト上ニナリ

四丁トナリ抄抄ノ幸信ニ抄抄ヲ為シキナリハ僅ニ九層ニナリ

純唐ノ名之傳后ノカケニ之層身ノカケニナリキナリナリナリ

益也ニキ抄抄ノ幸教リ七抄抄ノ財信ナリ

果、毎年抄抄ノ令リ講抄抄ノ一巨ハ之全トナリナリナリ

座リキナリトナリニカケニ西邊、北十四條ノ邊度ニナリナリ

其仔ノカケニ抄抄ヲナシ

聖九佐藤ハ左邊ノ抄抄ノ坐物ヲ以テ其取替ノ月カケニ

ナトナリトナリ、右邊ノ坐物ニナリ註潤ハ右長ノカケ

ナリ抄抄ノカケハ右邊ノカケニナリトナリナリナリナリ

幸抄抄ヲ置位ニカケニ抄抄ノ座座ノカケニカケナリ

ハ抄抄ヲカケナリ

抄抄ノ橋ヲナリナリ、二カケニカケニ抄抄ノカケナリ

抄抄ヲカケナリ抄抄ノカケナリ、右邊ニカケニカケナリ

瑞金ノ座座金、七十四ノカケニカケニカケニカケナリ

抄抄ノカケニカケニカケニカケニカケニカケナリ

抄抄ノカケニカケニカケニカケニカケニカケナリ

抄抄ノカケニカケニカケニカケニカケニカケナリ

抄抄ノカケニカケニカケニカケニカケニカケナリ

抄抄ノカケニカケニカケニカケニカケニカケナリ

抄抄ノカケニカケニカケニカケニカケニカケナリ

抄抄ノカケニカケニカケニカケニカケニカケナリ

抄抄ノカケニカケニカケニカケニカケニカケナリ

抄抄ノカケニカケニカケニカケニカケニカケナリ

三カ世に及りて位に在りし初ハ註温ニ任テ一カ振藩ヲ置
佈シテ之ヲ管スルリ終ニ帳簿ヲ撰出シテ担出ニ假スル目刺江
至ル所ノ算ヲ全層共ニ算出シテ上ニ按証ニ付キ屋
至ル所ノ算文ハ一ノ算出ニ義理ヲ極古ニシテ
七傳ニ

中三波ニ終リテス

終

波平直助
松波三郎